

## 研修報告書 No.26

所 属： 昭和大学藤が丘病院

氏 名： 杉山 美沙紀

研修先： 医療法人聖真会 渭南病院

特定医療法人長生会 大井田病院

2020年の1月、高知県宿毛市にある大井田病院で2週間、土佐清水市にある渭南病院で2週間の地域医療研修、沖の島へき地診療所で2日間の見学研修をさせていただきました。いずれも県庁所在地の高知市から公共交通機関で3時間程、車でも2時間半程かかる、高知県の西の端の幡多地域にある病院です。

大井田病院では、訪問診療にたくさん行かせていただきました。高齢化が進む地域であり、街中に病床が広がっているという考えで在宅医療に力を入れていました。さらに、訪問看護のお手伝いをさせていただいたのはとても貴重な経験でした。家族のサポートをしながら時間をかけて丁寧ケアを行う訪問看護の仕事は、都市部の急性期病院で研修しているだけでは知る由もありませんでした。また、DMATとして事故現場に出動したり、乳幼児健診や保健所で見学・研修させていただいたり、様々な経験をさせていただきました。

人口1万2千人程度の土佐清水市にある渭南病院は、市唯一の中核病院として救急搬送の受け入れをし、急性期から慢性期まで幅広く地域住民に医療を提供しています。院長先生をはじめスタッフの方々は、土佐清水市の急性期医療を守るという決意と誇りをもって仕事をされていることを強く感じました。外来や救急対応、訪問診療、検死までも経験させていただき、とても勉強になりました。また、地域の特性を理解し、他の医療福祉・行政機関との関係性を理解して地域の全体像を見て診療することが、地域の医療を守っていくためにとても必要なことだということをお教いただきました。

そして、高知での研修を選んだときに最も興味があったのは離島でのへき地医療だったので、沖の島へき地診療所に見学に行くことができたのは本当によかったと思います。沖の島は実際の人口が70人ほどの小さな島で、多くの階段があり、家々が積み重なるように建っている中で人々が支えあって生活していました。レントゲンやエコー、内視鏡など思っていたよりできることが多い一方で、その場でできる血液検査項目は限られ、CTはなく、薬も限られた種類しかない中で診療するのは医師の実力が試されると強く感じました。また、大しけの海を船で渡ったことで、患者搬送の難しさを感じました。

また、休日にはきれいな青い海や川、おいしい魚料理を堪能し、とても楽しい時間を過ごすことができました。幡多地域の方々はとてもやさしく親切な方々ばかりで、とても充実した研修を行うことができ、感謝の念でいっぱいです。本当にありがとうございました。